

「登下校の交通安全について」

土成小学校 五年 佐野 泰成

ぼくの学校では、地いきごとに登校はんを作って集団登校をしています。ぼくの家は、学校まであまり遠くはなく、交通量もそれほど多くはありません。ですが、車が少ないからこそ、スピードを出して通りすぎる車もあります。道はぼもせまいので、大きな車やトラックが通るときは「こわいな」と思うこともあります。登下校中の小学生の列に車がつつこんだというニュースを見たりすると、「自分たちは大丈夫かな」と不安になることもあります。自分たちが気を付けて歩いていても、車が急につつこんでくるような事故もあると知って、自分の命が守れるか心配になるからです。ぼくは今、登校はんのはん長をしています。低学年の子たちが四人います。だからいつも気を付けていることがあります。

一つ目は、周りをよく見て、曲がり角など見通しが悪い道などで車が来ていないか確認することです。

二つ目は、道はばがせまいので、はんのみんなが一列にならんで歩くことです。

三つ目は、横断歩道を渡るときは信号が青でも左右を確にんすることです。お母さんには「後ろを見て、みんながはなれていないか確認してね。」と言われています。はん長として、みんなの命を守りたいです。

三年生のとき、自転車交通安全教室がありました。自転車は左側を一列で通ることや、手信号のやり方、踏切や横断歩道の渡り方などを学びました。自転車の練習をして、安全に乗れるようになると、道路で乗ることができます。ぼくは、自転車に乗って小学校まで遊びに行ったことがあります。自転車に乗ると、毎日登下校で通る道も、歩いているときには感じなかった危険がたくさんありました

一つ目は、ブレーキをかけても急には止まれないことです。止まりたい所で止まれず、「ドキッ」としました。

二つ目は、道はばがせまいことです。車が通るときは左によって止まります。歩いているときよりさらに、「危険だな」と思いました。自転車は歩くよりスピードが出ます。その分ぼくたちが気をつけなければ大きな事故につながります。車とぶつかればぼくが大けがをしますが、歩いている人にぶつかると、ぼくが大けがをさせてしまうことになりました。自転車は乗り方によって人をけがさせるとこわい乗り物にも変わりました。

中学生になると、登下校で毎日自転車に乗ります。交通事故をへらすためにぼくができることは二つあります。

一つ目は、自分がルールをきちんと知って守ることです。

二つ目は、ゆずり合うことです。車も自転車も歩く人も、相手に気を配り、ゆずる気持ちがあれば、悲しい事故はなくなると思います。登下校だけではなく、安全を心がけ、これから楽しく学校に行きたいです。